

平成28年度第2回京都市域地域コミュニティ活性化推進審議会

- 1 日時 平成29年2月28日(火) 午後5時30分～7時30分
- 2 場所 職員会館かもがわ 3階 大多目的室
- 3 出席者 委員13名(欠席:林委員, 平田委員)
事業報告者 貞教自治連合会 佐々木副会長, 森幹事
藤森学区自治連合会 田村副会長, 永野副会長
事務局(寺井文化市民局長, 林地域自治推進室長, 猪田地域コミュニティ活性化・北部山間
振興部長, 大東地域づくり推進課長, 牧村市民活動支援課長, 他)

4 概要

(1) 議題1:「地域力アップ学区活動連携支援事業」について

ア 貞教自治連合会

資料3-1に基づき, 事務局及び貞教自治連合会から, 事業内容を紹介し, 質疑応答と意見交換を行った。

○長上副会長

自治会・町内会の加入率が85.5%と高い。なぜ, この事業に応募しようと思ったのか。

●佐々木副会長

ほとんどのマンションは町内会費を支払ってくれているが, オーナーや管理会社が一括で納入していることが多く, 入居者が町内会に加入している自覚がない場合も多い。町内会によってマンションの取扱いにバラつきがあるので, 1から整理していく必要がある。高齢化も課題だ。若い方もどんどん地域活動に参加してほしい。

オーナーが住んでいるマンションは, 町内会加入や地域活動参加の理解が得られやすい。

貞教は, ファミリー向けマンションより単身者向けマンションが多く, オートロックで入居者と町内会加入の話ができない。チラシやポスターなどで繰り返し啓発していきたい。

また, 不動産業者で入居の手続きをする際に加入を呼び掛けることを行政でシステム化してほしい。

学生との連携については, 二本松学院の学生に, チラシやポスターのデザインに協力いただければと思っている。さらには, 地域の夏祭りや福祉まつりにも参加してほしい。逆に, 二本松学院の学校祭などにも, 地域が参加していきたい。

○立木会長

高齢化の問題は, どの地域でも抱えており, その対策として大学に着目されている。

他所から来ている学生も多く, そもそも町内会に入ることが当たり前と思っている人ばかりでない。若者に町内会に入るメリットをどのように説明されるのか。

●森幹事

学生に町内会へ加入していただくことは難しい。学区には高齢者が多く、番組小学校を支えてきた誇りを持っている。二本松学院によって地域の環境が変わるこの機会に、新しいまちづくりを考える必要があり、この事業への応募を決めた。

学生への加入呼び掛けについては、まず、地域から学校の先生に話をし、先生から生徒に話してもらう方が良いと思う。参加ではなく、学生に手伝ってもらおう。地域から学生に対して、「町内会に入ってくれ」と言っても加入につながらない。

地域で防災訓練を行っているが、学生に参加いただくことで、災害が発生した際に大きな力になる。運動会、福祉まつりにも徐々に参加してほしい。町内会加入呼び掛けの順序を間違えると、結果的に町内会に加入してもらえない。そのためにも、住民が共通認識を持つ必要がある。

○立木会長

貞教学区は何が魅力なのか。

●森幹事

一番京都らしいまちだと思う。清水寺のような観光名所ばかりが取り上げられるが、貞教は、古い町並みと新しい町並みが共存している。歩いてみれば分かる。

学生には、清掃活動に協力してほしいと考えている。「今日はこの場所」と決めて清掃することで、まちの魅力を知ってもらうこともできる。

○志磨委員

京都中小企業家同友会では、学生と企業の社長との懇談会をしている。懇談会をしたことによって「こんなことを考えていたんだ」と理解できる良い機会となった。

イ 藤森学区自治連合会

資料3-2に基づき、事務局及び貞教自治連合会から、事業内容を紹介し、質疑応答と意見交換を行った。

○立木会長

自治会・町内会の加入メリットを掲載したチラシは、苦勞して作成されたと思う。

●永野副会長

地域住民が気軽に集まれる「地域の拠点場所」の確保を目指している。

また、安心安全なまちづくりも進めている。本町通は、道が狭く、小学生など子どもがよく通る道にもかかわらず、大型ダンプが通行しており、非常に危険だった。地域住民からの要望もあり、自治連合会と警察で協議し、一方通行などの規制をかけてもらった。

このように、自治連が地域住民の要望を受けて、行政と交渉し、その交渉成果を地域住民に見せていくことで、暮らしやすいまちであると実感していただけたと考えている。

○立木会長

チラシを作成した経緯は。

●永野副会長

他都市で作成されているチラシを参考に作成した。あまり難しいことを掲載しても効果がない。

○長上副会長

分かりやすいチラシである。これを未加入世帯に配布したとのことだが、何か反応はあったか。

●田村副会長

学区の広報誌である「暮らしの友」に、加入啓発チラシと防災講演会の案内チラシを挟み込んで、自治会・町内会未加入のマンションを中心にポスティングした。

防災講演会は、大学教授に講演いただくこととしており、未加入者が参加する機会になればと思っている。

自治会・町内会へ加入するメリットについてよく聞かれるが、すぐに答えるのは難しい。

災害時の備蓄品は、会員分しか備蓄していない。会員から「未加入者は後回しだ」との厳しい意見もある。

藤森学区では、様々なワークショップをしている。各種団体の連携はあるが、各種団体の活動が見えず、形骸化しており、自分たちで何かつくり出していくことを進めていきたい。「京都市地域コミュニティ活性化推進計画（改定版）」に掲載されている地域自治組織の組織図は、藤森学区自治連合会が理想としている組織形態である。

まずは、住民自らが出来ることとして、今年度は、盆踊り大会の開催に当たって、実行委員会を立ち上げ、町内会員でない方、大学にも来てもらい大会当日は、約2,000人の参加があった。

現在は、学区の方に作詞作曲をしてもらい、藤森音頭をつくっている。また、小学校の校歌を盆踊りにして、一緒に振り付けを考えるなど、いかに子どもたちに入ってきてもらうか考えている。

○山本委員

本日の2学区の話を知っていると、すごく活発な学区だと感じた。京都市の支援がなくても、自ら頑張っていけるのではないか。町内会の加入率向上への助成やこの事業に応募されないような、元気のない学区について支援していく必要があると思う。

○立木会長

どの様な制度があれば活性化するのか。学区独自の取組もあるし、権限の移譲の様なものまで検討し、自治力をさらに高めるためのグッドプラクティスを是非つくってほしい。

- (2) 議題2：平成28年度の主な取組状況について、
議題3：平成29年度 京都市地域コミュニティ活性化推進事業計画（案）について
事務局から資料4，5を中心に説明

◎立木会長

京都市地域コミュニティ活性化推進計画（改訂版）は、本審議会委員の意見をもとに策定されている。この計画に掲げる事業の進捗を確認していくのが、我々委員のミッションである。

○山崎委員

「民間集合住宅における空きスペース等の集会所転用の支援の検討」に関連して、大都市では民間の建物の屋上緑化を進めるべきであると考えており、合わせて検討してはどうか。

「地域連携・安心安全快適マンション認定制度（仮称）」は防災に関心が高く、全戸が自治会に加入しているというのは、素晴らしい制度だ。認定のメリットとして、例えば防災グッズを配布するなどしてはどうか。

●事務局

マンション認定制度の検討を進める中で、住宅事業者からは厳しい意見をいただいているので、再度検討していく。

○石井委員

本会議の運営について、各委員から意見が出せるよう、時間配分について配慮していただきたい。

●事務局

今回は地域力アップ学区活動連携支援事業について、地域の方にお越しいただきお話を伺った関係もあり、時間配分が厳しいものとなった。今後配慮していきたい。

(3) その他

事務局から参考資料3に基づき報告

(閉会)